

所属・資格 哲学科・教授

申請者氏名 古田 智久

研究課題	形而上学的様相と物理的様相について
研究目的 および 研究概要	<p>様相（可能性と必然性）の研究においては、様相の種類として、一般的に、論理的様相、認識論的様相、概念的様相、形而上学的様相、物理的様相、以上五つのタイプの様相が区別されている。しかしながら、これらの様相が実際にどのようなものであるかということ（特に、これら五つの様相の重なり具合がいかようであるかということ）は、必ずしも明確になっていない。本研究の目的は、これらのうち、存在論的な様相である形而上学的様相と物理的様相それぞれの特質と相違について明らかにすることである。本研究は、形而上学的様相について考察する際に「二次元意味論 two-dimensional semantics」を手がかりとして考察を進めるという方法を採用する。</p>
報告の概要	<p>本研究において明らかになった形而上学的様相と物理的様相それぞれの特質と相違は、以下のように要約される。</p> <p>形而上学的様相と物理的様相の相違は、端的に言えば、後者が現実世界のみを考察対象とするのに対して、前者がすべての可能世界を考察対象とする（現実世界も可能世界のうちのひとつと考える）ことである。現実世界において当該の命題・式 p が必然的か可能的かについて考える際の重要な指標は、物理法則との関係である。p が物理法則によって論理的に含意されていれば p は物理的に必然的であり、p が物理法則と論理的に無矛盾であれば p は物理的に可能的である。物理的可能性については、さらに物理法則に矛盾しない範囲で無制限に可能性を考える理論的なレベルでの可能性と、現実世界で実現されている科学技術との関連で可能性を考える技術的なレベルでの可能性が区別される。</p> <p>他方、形而上学的様相については、可能世界との関係が問題とされる。p がすべての可能世界において真であれば p は形而上学的に必然的であり、p が（すべての可能世界においてではなく）ある可能世界において真であれば p は形而上学的に可能的である。物理的様相が関わる命題や式については物理法則との関係が指標となっており、それゆえそれは経験的証拠によって支えられている。それに対して、可能世界は（可能世界を实在論的に考えるのではない限り）思弁的なものであるため、各可能世界をどのように構成するかということに関しては、経験との照合ではなく、「約定 stipulations」（ないしは規約 conventions）が大きな役割を果たすことになる。例えば、形而上学的必然性がさらにアプリアリな必然性とアポストリアリな必然性に区別されることを根拠づけるために「二次元意味論」が提案され様々な形で洗練されてきたが、二次元意味論においては、一般に表現は、二つの内包、すなわち、表現の意味と指示を現実世界において字義通りに固定して得られる「一次内包 primary intension」と、現実世界における語の意味と指示を字義通りに固定し、続いて、それをすべての可能世界においても固定して得られる「二次内包 secondary intension」を有するとされる。しかしながら、一次内包と二次内包をそのように規定することは、物理的様相に深く関わっていた「経験との照合」とは全く関係のない「約定」に基づいていると考えられる。こうして、形而上学的様相を表す文の真理性はその根底では約定に支えられており、結局のところ、それはいわゆる「規約による真理」の一種と見なされることになる。</p>
研究の考察・反省	<p>本研究では、形而上学的様相としての必然性および可能性（偶然性）を、可能世界との関係によって捉える立場について考察した。この立場によれば、もの（物理的な物／自然種）の「本質」は、デレ様相として表現される必然的真理の一種として理解される。他方、現代の形而上学研究においては、ものの本質を、以上のような様相的な捉え方ではなく、様相とは切り離して捉える立場（すなわち、本当の意味での「アリストテレス的本質主義」）があることが明らかになっている。本研究では、ものの本質とは何かという問題（本質と形而上学的様相との関係）についても考察したかったが、それについては、時間の関係上次年度以降に持ち越されることになった。</p>

<p>研究発表 学会名 発表テーマ 年月日／場所</p> <p>研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者</p>	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>成果物となる論文を、現在執筆中である。 今年度中に脱稿できなかった理由は、今年度別の 3 篇の論文を執筆・公刊しており、本研究の成果物の執筆が遅れたからである。</p>
--	--